

Route Press 21st.

道 21 世紀 新聞

発行所：内閣府認証 特定非営利活動法人 人と道研究会
東京都港区虎ノ門4-1-1 虎ノ門パストラル内
Web <http://www.route-press21st.jp>

「旅立ち」 「乗せろっそう



鶴ヶ岡八幡宮での挙式の後、新郎・新婦を乗せ鎌倉の街中を走る人力車＝荒巻万佐行写す

3号 11月



約40年ぶりに再現された山里の嫁入り行列。道中では長持ち唄も流れた＝大和町提供
だが、街で、道で花嫁さんの行列と出会う機会はない。そんななか、民謡「お立ち酒」で知られる宮城県大和町で2年前、昔ながらの花嫁行列が再現された。提灯を先導に長持ちや箆の担ぎ手の列、後に花嫁、花婿が続く道中行列では長持ち唄も披露され、酒が振る舞われ、地域の集落全戸が婚礼を祝ったという。
歴史を刻み、暮らしを見つけてきた道。ヒトが行き、モノが運ばれた道はまた、文化交流の舞台でもあった。そんな舞台を最も華やかに彩ったのが、花嫁行列だったのかもしれない。

都の景色に映え

「おめでとう」「お幸せに」。祝福の音が飛ぶなかを、花婿と花嫁さんに乗せた人力車がさっそうと駆け抜ける。週末、古都・鎌倉の若宮大路を訪ねると、そんな光景がよく出会う。「信号待ちも花嫁さんに乗せて走るの嬉しいもんですよ」と青木茂さん(57)。鎌倉に花嫁を乗せた風景は、古都の時間にもぴったりとマッチする。
だが、街で、道で花嫁さんの行列と出会う機会はない。そんななか、民謡「お立ち酒」で知られる宮城県大和町で2年前、昔ながらの花嫁行列が再現された。提灯を先導に長持ちや箆の担ぎ手の列、後に花嫁、花婿が続く道中行列では長持ち唄も披露され、酒が振る舞われ、地域の集落全戸が婚礼を祝ったという。

INDEX	
1~3	嫁ぐ花嫁 「旅立ち」
4/5	ハイウェイオアシス
6	ハイブリッド車公開実験
7	東京モーターショー
8/9	道の駅 名物料理15選
10	ファイト! 道の駅の挑戦
11	話題の道の駅
12/13	緑の旅
14	読者の声

15面 日本酒「加賀の井」10名様にプレゼント

エッセイスト

海老名香葉子さん
 ●おひな、かよこ 1933年東京生まれ。52年、林家正師匠(80年没)と結婚。2男2女をもうける。『しるの正面だあれ』など著書も多く『平分のさつまいも』は秋アノ映画化。今年3月、東京・上野に被災慰霊碑などを建てた。



緑故疎開していたんです
 が、昭和20年6月にその
 おじさんが転勤になり、つ
 いて行きました。私は6

私の道

石川県の能登半島の中
 どに穴水という町がありま
 す。その宇留地という集落
 で敗戦を迎えました。静岡
 県の沼津にいた叔母の所に



海老名さん(上)と宇留地地区

年生でした。
 東京大空襲で身内を6人
 亡くしてしまし、うちひし
 がれてしまっ、うねえ、私
 運命どうなるんだろう、こ
 れからどうやって生きてい
 くの、か、
 と、そんな
 私にその地
 の人は何も聞かず、ただお
 ともおかかもおらんだ
 なあという感じ。口数は
 少ないけれど、じいっと目
 を見て話す人が多かった。

心は戻る…能登半島の穴水

農家のおばあちゃんが手招
 きして閉居裏で焼いたジャ
 ガ芋をくれたり、その優し
 さが身にしみました。
 全校生徒20人ほどの分校
 まで、石がゴロゴロした凸
 凹の坂道を上って行くんだ
 す。横をきれいな川の水が
 サワサワ流れていて、元気
 ような歌いながら学校へ通う
 の。川で泳いだり山に入っ
 てアケビを食べたりキノコ
 を取ったり、いっときは親
 兄弟が死んだことさえ忘れ
 て興じました。
 そんなに10月の終わり
 に東京へ帰らなければなら
 なかった。



有料道路と一般道の交差点

ハイウェイオアシスの。海・山・街の産品が
 高速・一般共用の利便性 一堂にそろい、手軽さが
 を生かしたのが「道の駅」人気だ。毎朝、入荷する
 富葉里(ふりり)とみ ささやアワビなど魚介
 やま。(千葉県安房郡富 類は漁協直営食処で調
 山町)「道の駅」では全 理もしてける。ほかの
 国でも珍しいオアシス型 見学者からの
 だが、ここは高速道路で 営業者も、とい
 はなく富津館山有料道路 「道の駅」の運営にも
 と一般道の交差点。地 防災型やレジャー型、産
 元の農家や町、商工会の 直物販型など多面的要素
 ほか、漁協も第3セクター が今後、ますます望まれ
 1に加わり地域一体の道 ている。



「ハイウェイオアシ
 ス」の出現は車社会の象
 徴ともいえる。しかし、
 高速道路から一般道まで
 の相互出入りを可能にす
 る料金所の新設は課題も
 多い。最小の料金所でも
 「1億円」といわれる年
 間維持費を、クリア出来
 る採算性が求められる。
 という。料金所併設の「ハ
 イウェイオアシス」はこ
 く少ないが現状、ハイ
 ウェイビジネスは、公団
 民営化に後押しされなが
 ら今後が注目される。

珍しいオアシス型道の駅とみやま

道路4公団の民営化
 で、新たに誕生したハ
 の新会社スタートした
 が、相前後して法改正で
 高速道路利用の規制緩和
 が図られた。その結果、
 人の出入りが自由になっ
 たSA・PAの一層の多
 角的高度利用が期待され
 ている。一般道の民間商
 業施設と高速道路とを連
 結することでより多くの
 集客が可能になったわけ
 で、「ハイウェイオアシ
 ス」と名付けた地域拠点
 施設が現在、全国17カ所
 に完成し、人気を集めて
 いる。一方で、「道の駅」
 そのものがハイウェイオ
 アシス・スタイルで開業
 した第3セクター施設も
 千葉県に登場し、賑わっ
 ている。整備された現代
 の「道」と「人」の営み
 が、新たな「地域融合ソ
 ーシング」を生み出す「ハ
 イウェイビジネス」の始動
 だ。

ハオア人

国交省有料道路課によ
 ると、「ハイウェイオア
 シス」は北海道砂川市の
 道央道砂川SAの「北海
 道こども国」、佐賀市に
 の長崎道金立SAの「金
 立公園」、静岡県富士川
 の「富士川楽座」など。
 業種別では、ショッピ
 グセンター、遊園地、展
 示場、スキー場、テーマ
 パークがほとんど。
 いずれも、高速道路上
 の車をレストランやおみ
 やげ店に呼び込むことが
 出来るようになっ
 * 出ると、それまで一般
 車道の豊明インタ
 ーと豊田南インタ



①にぎわう屋の刈谷ハイウェイオアシス
 ②夜のオアシスの「大観覧車」はイルミネーションがまばゆい

「刈谷」には大観覧車や天然の温泉、産直市場も

一般道の商業施設と連結

* 1の間にあつて、
 上下線どちらから
 でも利用出来る。もちろ
 ん、一般道からの出入り
 も自由だ。
 遠くからでも目立つ高
 さ60メートルの大観覧車
 のほか、天然温泉、産直市場
 などの施設が広大な敷地
 に並ぶ。駐車台数は高
 速一般道合わせて130
 0台を確保している。ま
 さに「オアシス」そのも
 のの景観と充実した施設
 内容だ。
 同オアシスの沢田忠・
 管理部長は「道の駅はど
 こもトイレが汚い、とい
 う評判を聞いていたの
 で、思い切って豪華な女
 性トイレにし大好評で
 す。高級ホテルにも劣ら
 ない、テラススタイル
 がマスコミの話題にもな
 りました。こうした気
 配のほかに、刈谷ハイ
 ウェイオアシスの盛況の
 背景には、名古屋や豊田
 を控えた立地の良さも大
 きく効いている。



刈谷ハイウェイオアシスのにぎわう産直市場

ブリヂストンの変らぬ情熱。

世界のあらゆる場所で、すべての人のそばで、
 最高の品質で応えること。心を動かすこと。

「PASSION for EXCELLENCE」

皆様の安全で快適な生活をささえ、
 喜びと感動を提供するために。

あらゆる企業活動を通じて
 常に最高の品質を追求していきます。
 私たち、ブリヂストンにご期待ください。

BRIDGESTONE
 PASSION for EXCELLENCE

bridgestone.co.jp

Route Press 21st.

道 21世紀新聞

発行所：内閣府認証 特定非営利活動法人 人と道研究会
東京都港区虎ノ門4-1-1 虎ノ門パストラル内
Web <http://www.route-press21st.jp>



愛・地球博の会場には、世界各地のめずらしい「炭焼き窯」の模型が展示。

炭が地球を救う

今、炭を使った緑の地球再生プロジェクトが注目されています！

この9月に幕を閉じた「愛・地球博2005」の、市民パビリオンにブースを出展したNPO法人炭文化協会は、様々なメディアや来場者そして博覧会協会からも深い関心を寄せられた。この協会が提案した「海上の森を元気にする」使用された竹や木材を全て炭にして、海上の森に戻すという計画は、博覧会協会内の議題に上がった。このプロジェクトが実現すれば、博覧会のテーマとも合致し、21世紀の新しい博覧会としての実績にもなる。

地球温暖化と共に、酸性雨で世界各地の森が傷んでいる。山では、土砂くずれが多くなったり、そして何より重要な点は、森の汚染は私たち人類を支える水の危機にもつながる。

それら問題の解決策のひとつとして、つい最近まで日本各地で行われていた「炭焼き」が見直されている。

それは、炭がアルカリ性で酸性の土壌を中和する働きがあり、且つ炭の多孔性の作用で木々の根の成長を促進する事が相まった評価だ。また、炭はその特性を活かし、私

森は、地球の酸素のバランスを保っている！

自然にできあがってきた森には、豊かな命のつながりが生まれ、多くの種類の木々や、草・シダ類、そしてキノコや昆虫、鳥、そして動物達が暮らしている。

私たち地球上のあらゆる生き物は、30億年以上ものあいだ、植物たちが、二酸化炭素を吸って酸素を吐き出してきている。光合成のおかげで(植物の呼吸により排出される二酸化炭素の量よりも多い為)、おいしい空気を呼吸し、生きてきている。

この森が、人間の開発や酸性雨による消失で少なくなると、こうしてバランスにも影響が

私たちの生活の種々な分野で商品化され使われ始めている。最近では炭の吸着能力に着目し、鮮度保持材としての利用なども始まっている。そして、こうした炭が、国内で安定して生産されるシステムが生まれれば、杉林の一部が炭に適した広葉樹の森になり、その広葉樹の森は保水能力も高く、土砂崩れにも強い森となっていく。

本来の水は、完全な中性だが、雨は空気中の二酸化炭素を溶かして降ってくるので弱い酸性。しかし、1980年頃からヨーロッパや北アメリカで森林の木が次々と枯れた原因の酸性雨は、工場や自動車などから排

出された硫黄酸化物や、窒素酸化物が雨の中に混じり酸性が強くなりできていく。

酸性雨は、木を枯らし、湖の水を酸性化し魚を棲めなくしていく。また、酸性化した土は、土壌中の水溶性アルミニウムを発生させ、これらは、毒として土中の生物を殺し、植物の根を枯らしていく。

炭文化協会の特別顧問で、元農林省林業試験場木材炭化研究室長の杉浦銀治氏は、「炭焼きの会」の故岸本定吉氏とともに、早くからこの炭の効用に着目し、傷んだ山に炭を撒く運動を進めてきた。亜硫酸ガスによる影響で褐色の山肌を見せる旧足尾銅山周辺の木の根元に炭を撒く実験を、1999年から始めました。その効果は、こすえ枯れ(木が木全体を守るため根に最も遠い部分から養分が回らなくなるために梢から枯れていく病気が減ってきている事からも、炭の効果を確認されている。この活動は、今では名古屋でヘリコプターを使って山に炭を撒

く活動へと広がっている。全国でこうした取り組みが進み、傷ついた森が少しでも修復されていけば、地球温暖化防止に役立つ。酸性雨で傷んだ森も少しは元気になり、私たち人間が生きていく上に必要な水を育んでくれるはずだ。

文/佐伯剛正(さえきこうせい)

NPO法人炭文化協会代表理事。他にもNPO法人「森の学校」などで、子どもたちへの環境教育の活動を続ける。本業はプランナーで「2001年福島未来博」「2004年えびの町並博」「2005年愛・地球博」などに関わり、企画・運営を行っている。

〈炭を使った地球再生プロジェクト〉

〈炭文化協会の活動支援の一例〉

